(別添4)

【佐世保市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

今日の社会は、人工知能(AI)、ビッグデータ、IoT(Internet of Things)、ロボティクス等の先端技術が高度化し、あらゆる産業や社会生活に取り入れられ、社会の在り方そのものが劇的に変わる「Society5.0」時代が到来し、生活のあらゆる場面でICTを活用することが当たり前の世の中となっています。

このように、社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難な社会において、次代を切り拓く子どもたちには、情報活用能力をはじめ、言語能力や問題発見・解決能力など、これからの時代を力強く生きていく上で基盤となる資質・能力を確実に育成していく必要があります。

「令和の日本型学校教育」の構築を目指した中央教育審議会の答申(令和3年1月)及びそれに続く政府の議論等においては、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実することで「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげることが求められており、1人1台端末等のICTを積極的に学びの中で活用することで、より重層的な効果が期待されます。

これらのことから、佐世保市では、GIGA第1期の取組を進めるにあたり、ICT環境を活用することで既存の様々な制約を打ち破るとともに、児童生徒一人一人が個々の課題や学習状況、特性等に応じて、自ら目標を設定し、学習方法を自ら選択しながら、主体的・協働的に学習に取り組むことで、新しい時代を生き抜く創造性や社会性を身に付けていくことを目的とした「スマート・スクール・SASEBO構想」(令和2年度)を策定し、これをよりどころとして教育の情報化を進めています。

スマート・スクール・SASEBO構想(GIGA第1期)の取組

(1) 時間・距離の制約の排除

1人1台のLTE端末とクラウド環境を整備することにより、いつでもどこでも学習の機会を得ることができ、また、インターネットを通じて遠隔地との通信を行うことで、外国のネイティブスピーカーとの交流など時間・距離の制約を受けずに学習の機会を得ることができる環境を創出します。

(2) 国際社会で通用する情報活用能力の習得

情報の利活用不足による国際社会からの遅れを取り戻すため、情報活用能力の向上を目指します。情報活用能力の向上により、目指すべき3つの資質・能力(※1)を高めることができます。

※1：学習指導要領で示された「知識・技能」「思考・判断・表現力」「学びに向かう力・人間性」のこと

(3) 個々の学習状況に応じた学習の実現

AI型ドリルやクラウド環境を活用した汎用的なソフトウェアなどの様々な学習系コンテンツを活用することで、個々の学習状況に応じた個別最適化された学習を実現できる環境を創出します。

(4) 学習環境の差異の排除

LTE 通信により、家庭の通信環境に関係なく、端末を使用することができる環境を創出します。

スマート・スクール・SASEBO 構想 NEXT (GIGA 第2期) で目指すべき学び

スマート・スクール・SASEBO 構想 (GIGA 第1期) で端末等を整備したことで、「個別最適な学び、協働的な学び」を深めることができる環境が整備されました。すなわち、端末を活用することで、各々の特性・学習進度・学習到達度等に応じた指導 (指導の個別化) と、各々の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じた学習 (学習の個性化) など「個別最適な学び」や、クラスメイトを含めた多様な他者との協働学習を通じて、異なる考え方が組み合わせさり、より良い学びを生み出す「協働的な学び」が実現できるようになりました。

スマート・スクール・SASEBO 構想 NEXT (GIGA 第2期) では、これらの、「個別最適な学び」・「協働的な学び」がより一層推進し、「主体的・対話的で深い学び」をさらに充実させていくことを目指します。

すなわち、学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」の実現。

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えることを通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」の実現。

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、問題を見出して解決策を考えたり、思いや考えをもとに創造したりすることに向かう「深い学び」の実現。

これらの「主体的・対話的で深い学び」の実践を行うことで、最終的には、学習指導要領前文にある「一人一人の児童 (生徒) が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができる」、そのような「資質・能力の育成」に繋がるような学びを目指していきます。

2. GIGA 第1期の総括

佐世保市では、令和2年度に、児童生徒用端末 (LTE 回線含む) 20,511 台、電源キャビネット (充電保管庫) 676 台を整備するとともに、クラウドソリューション (Google Workspace for Education) の環境を活用し、児童生徒の思考や議論を促しながら表現活動をサポートし、情報活用能力向上の一助とすることを目的として、児童生徒用端末で使用するアカウントとして、Google アカウントを配付しました。また、これら GIGA スクール構想で整備した環境を、効果的に活用するため、「スマート・スクール・SASEBO 構想」を策定し、構想に基づき、教職員研修や様々な知見共有のための取組を行ってきました。

以上のように GIGA 第1期の取組を進めてきましたが、その効果として、本市の調査結果によると、授業で ICT を活用している教員の割合は、端末導入前と比べ、大幅に増加しており、ICT の活用が深ま

っている状況です。

このように、授業や学級経営、家庭学習等で毎日 ICT を活用する教職員の割合が増加している背景には、デジタル教材やオンラインプラットフォームの活用が進み、児童生徒の理解を深めるための多様なコンテンツが利用可能になったことに加えて、教職員の ICT 活用指導力向上を目的とした各種研修の実施や ICT 支援員の配置による支援体制の充実が寄与しているものと考えられます。

また、ICT 活用意識が向上したことについては、新型コロナウイルスの影響でリモート授業が一般化したことで、教職員が ICT を活用する場面に数多く直面してきたという背景も関連していると考えられます。これらの背景が、個別学習の支援や学習進捗の管理を後押しすることとなり、学習者を学びの中心とした教育の質の向上が実現できています。

一方、教員の ICT 活用指導力の状況は、文部科学省が実施している「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」の令和 5 年度の結果から、教職員の「児童生徒の ICT 活用を指導する能力」のうち、「児童生徒が互いの考えを交換し共有して話し合いなどができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導する能力」が、比較的高いレベルにある他の能力と比べて相対的に低い結果であることから、協働的な学びの場面で ICT 機器等を活用することが苦手であることが分かっており、今後はこの能力を育成するための研修を充実させていく必要があります。

また、教職員の ICT 機器等の活用意欲や習熟度には個人差があり、これが児童生徒の学習に大きく影響を及ぼすと考えられます。このようなことから、ICT 活用研修やデジタル技術によって社会に積極的に参加することを目指したデジタル・シティズンシップ教育等に係る研修を今後も充実させ、教職員による活用差が生じない環境づくりが必要となってきます。

3. 1人1台端末の利活用方策

佐世保市では、GIGA 第 2 期の取組を推進する為に、令和 8 年度に、スマート・スクール・SASEBO 構想 NEXT を策定するとともに、児童生徒の 1 人 1 台端末の更新を計画しており、佐世保市教育委員会の 5 課で構成されるスマート・スクール・SASEBO 推進室において、各種の業務等を推進し、児童生徒及び教職員にとってさらに充実した ICT 環境を維持していくことを目指していきます。

これらの ICT 環境の充実に向けた取組を前提としながら、1 人 1 台端末の効果的な利活用推進を図り、次の 3 つの視点から教育の情報化を推進していきます。

(1) 1人1台端末の日常的な利活用

ICT 活用に関する教職員研修を継続することで、全ての教職員へ効果的な利活用についての情報共有を図っていきます。加えて、協働的な学びの場面で ICT 機器等を活用する能力を積極的に育成していく研修の実現を図っていきます。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実について

児童生徒が「自分で調べる場面」・「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面」・「児童生徒同士や教員と交流する場面」において、積極的に1人1台端末を活用することができるよう、教職員に対して、具体的な活用事例など、積極的な情報提供を行います。

(3) 全ての児童生徒への学びの保障について

心身の不調等により不登校傾向にある児童生徒や発達障害等によって学習における困難を抱える児童生徒、日本語指導が必要な外国籍の児童生徒等に対し、1人1台端末を活用することで学びの幅を広げ、個々の可能性の伸長を図るために、その状況を問わず、等しく一人一人の学習機会を確保していきます。

また、クラウド環境を活用したAI型ドリルやオンライン学習教材の充実に向けた各方面の環境整備を継続することで、一人一人が自らの目標に向かって、学習方法等を選択しながら、主体的・協働的に学習に取り組むことができる「学習者中心の学び」の実現に向けた取組を行います。